

タイ チェンダオ山 (2225m)

今野善伸/宮崎充子

【山行日】2017年1月31日(火)～2月1日(水) 一泊2日

【交通・費用】タイ航空(往復)6万円 現地支払4.4万バーツ(≒3円/バーツ)

【コース】本文中に掲載

【参加者】県連40周年記念行事として実施、野木4名、マロニエ4名 その他5名

タイの北部、ミャンマーとの国境に近いタイで3番目に高いチェンダオ山 2225mと最高峰ドイインタノンに登ってきた。チェンダオ山は石灰岩でできた独立峰で、乾季の4ヶ月間(11月～2月)のみ、登山許可を得て登ることができる。一日入山数は200名に制限されているのと、荷物を全部ポーターに預ける決まりで、とても楽に登れる。

1月29日(日)朝8時半羽田空港に集合して挨拶、行きは羽田だが、到着時刻の関係で帰りは成田とした。バンコクで飛行機に乗り換え、古都チェンマイに向かう。機上で日没になった。空港で現地ガイドのブン・ワットさん(=愛称ブンちゃん)が専用バスで迎えてくれた。ブンちゃんは日本で暮らしたこともある愉快的な男性だ。この晩から、知人の岡坂さん(横浜HC)が二十年通って開拓してくれた色々なメニューをいただくのだから、すべて美味しかった。ハズレという言葉がなかった。ホテルはチェンマイにある「ホリディン・チェンマイ」に荷をおろす。近くには1995年テレサテンが亡くなった「ジ・インペリアル・メイピンホテル」がそびえていた。アジアの歌姫はここで亡くなったのかと感ひとしおだった。そしてチェンマイを選んだ理由も納得できた。



1日チェンマイ観光を挟んで翌31日(火)からチェンダオ山に向かう。屋根がない2

台の乗り合いタクシーに分乗して、途中で市場に寄る。2日間の食料買出し。終了後は猛スピードで一路北部へ。水田が見えてきた。3期作とか。天気は快晴。しばらくして、道路の左側にチェンダオ山の険しい山容が見えてきた。見事な山だ。山麓から一気にそそり立つ感じで、あんな高いところまで今日中に登れるのだろうかと思う。

麓の森林事務所で登山届けを提出し、登山ガイドとポーターに荷物を預ける。頭上にはチェンダオ山の稜線が高くそびえ、空は真っ青だ。出発前に登山口で昼食、市内で立ち寄って仕入れた幕の内弁当を食べた。日本食は力がつく。最初の登り道は狭くて滑りやすい。緑の景観で植生が豊かなせいか日本とあまり変わらない。急傾斜を約1時間登ると、道が緩やかになり両わきには野生のバナナが出てきた。チェンダオ山の馬蹄形の稜線の内側に入った。正面には3兄弟峰の岩峰がそびえていた。明日、下山時に使う三叉路で休息をとる。さらに登っていくと、いかにも石灰岩大地らしい風景となった。(石灰岩に映える紅い樹木の正体) 3時過ぎに今夜の幕営地に到着、早速ティを飲む。数パーティの20-30人が入山している。我々のテントはすでにシーズンはじめから設営されていた。だから7人の荷揚げポーターで済んだ。この山は石灰岩でできているので、水は地下に浸透し地下水を作る、そのために水の確保は無理なのですべてポーターが担ぎ上げる。見られなかったが大きな鍾乳洞がある。チェンダオ山は日帰り登山ではなくて、山頂直下のBCで一泊して日没を眺め、翌朝には東に位置するギェル山に日の出を見に行くプラン行程である。



夕方日没を見込んで山頂へ出発する。山頂へのコースタイムは30分ほどだ。サンセットを待つが、だんだん気温が下がってきた。フリースを着る。一日晴天だったにもかかわらず日没方向には暗雲垂れ込めていて、望めないのではないかと思った。そのときに雲がきれて僅かに3兄弟峰の右に夕日が見られた。満点とはいかなかったが、雰囲気は味わえた。日没後の暗くなることの早いこと、足元を照らしてBCに到着。

BCでは、夕食づくりの真っ最中、ご飯とパンに野菜スープ、カレー2種類、卵焼きにウィンナーソーセージとボリューム満点、食べきれなかった。圧巻は食後のデザート、メロンにイチゴ、りんごにバナナ、パイナップル・パッションフルーツこんなにたくさん担ぎ上げてくれたのだと感謝した。

夜中に星空を眺めるとオリオン座がすぐわかる、一人の男性がカシオペアやすばる座、シリウス（おおいぬ座）だと教えてくれた。北の方向に日本では見られない1等星が見えた。日本で調べたら（南の緯度に見られる）カノープス*だとわかった。

*竜骨座の一等星：船体の構造である竜骨（りゅうこつ）という船に関係した名前がついている。

一年前まではトイレが整備されていないことが難点だった。キャンプ地には2箇所のトイレテントが設置されて深い穴が掘られている。この人数ではとても足りる訳がなく、テント内でのペーパー散乱、周辺でのキジ紙が散乱していて用を足す気持ちになれない。携帯トイレが必要だったと述べている。しかし、今回からは我々のパーティ専用のトイレテントをそれぞれ男女別に設けた。要領は携帯トイレと同じ、終了後はまとめて土の中に埋めるが、エコロジ的にあとは細菌が分解してくれるのである。

第1 ベースキャンプ前



1月31日（火曜）

ホテル出発 07:40＝市場（食品買物） 08:50～09:20＝チェンダオ登山自然保護局 10:00～10:25＝パンウアー登山口（昼食） 10:50～11:20＝サンエーク（分岐三叉路） 13:15～13:20＝ドイ・ノイ（BaseCamp1） 13:45～13:50＝BC テント場（BaseCamp2） 15:10
同出発 17:00 頃＝ドイ・チェンダオ山頂 17:30～18:15＝BC 到着 18:45

2月1日（水曜）は4時に起床、三日月なので星空がよく見える、5時にヘッドランプを灯けて、ギウロム峰 2150m を目指して出発。5時半過ぎには山頂に到着、シェルパが暑いミルクティを沸かしてくれた。肌寒い夜明け前のティはおいしかった。昨夜の日没をゴメンなさいするかのように、今朝は素晴らしい日の出のプレゼントだ。ビルマ方面からだが、森は深く黒い。よく植生した豊かな森だということがうかがえる。

下山して朝食をとる。ロティと呼ばれるクレープに似た全粒粉をつかったパンの一種で、卵焼きを巻いて食べた。フルーツもたくさん食べて腹ごしらえ、8時半に出発。下山は早いこと、3時間で登山口に到着した。デンヤーカット登山口では、タイの伝統料理「カオラン」というちまきを食べた。この竹筒に餅米が入った料理の美味しかったこと。もう一つは、桜の開花時期だったので、そめい吉野とは違う品種、色の濃い桜があちこちに咲いていて、日本の春を思わせた。

ここからがスリル満点、4駆のトラック荷台に乗って自然保護局まで戻る道は、凄まじいデコボコ道。くねくねとした道をスピード出して走るので、カーブを切るたびに体が右に左にと振られ、車外に振り落とされないようにしっかりとボディを掴む。昨日はこの車酔いで2人がカミングアップ（嘔吐）したが、今日は無事到着した。

2月1日（水曜） BC 発 05:00＝ギューロム山頂 05:45～06:15＝BC 着
07:00＝（朝食 撤退） BC 発 08:30＝ドイ・ノイ 9:15～09:20＝サンエーク
9:55～10:00＝デンヤーカット登山口 11:30＝同登山口発 12:30＝チェンダオ登山自然保護局 13:45

以上